

(有)静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL0559(77)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230

国民7割の反対の声を無視して 4/1から

サラリーマンの医療費3割負担を実施

* 社会保険本人の医療費窓口負担 2割 3割

改訂内容

* 社会保険家族の入院窓口負担 2割 3割

* 退職者保険(本人の外来・入院、3才~69歳の家族の入院) 2割 3割

* 処方箋調剤の薬剤一部負担金の廃止(本文下部に説明あり)

600を超える自治体の反対決議と3000万の反対署名が

県内でも8自治体(伊東市、西伊豆町、小山町、函南町、富士川町、榛原町、相良町、大須賀町)が3割負担凍結決議、民医連等県社保協だけで40,000を超える署名

今回の医療改悪に対しては、負担増の中止を求める声と運動が日本全国に広がり、22道府県議会をはじめ600を超える市町村で「負担凍結」「延期」の決議が採択され、3000万を超える署名が集まりました。医師会や薬剤師会など4師会がそろって「延期」を求める運動を推進したり、国会においても野党4党が「負担増凍結を求める法案」を衆議院と参議院に提出しました。3月の世論調査でも7割の国民が負担増に反対していたにもかかわらず、自公保連立与党は国会審議をさけて法案を棚上げにしていきました。こうした国民の切実な声や運動を無視する政府の暴挙は許せません。わたしたちは、3割負担凍結と撤回をめざして新しい「患者負担の軽減をもとめる請願」署名に引続きとりくんでいきます。

今回合わせて廃止された

「薬剤一部負担金」制度について説明します

もともと厚生省が、平成9年に社会保険本人一部負担を1割から2割に増やした際に、患者の受診や投薬を減らそうと始めた制度です。6歳以上70歳未満の人を対象に投薬された薬剤の種類の数で、保険の窓口負担金とは別に上乘せして徴収されていました。内服薬1日あたり2~3種類で30円、4~5種類で60円、6種類以上100円を日数分負担します。外用薬も1種類50円、2種類100円、3種類以上150円など。例えば4種類の薬を28日分処方されると1680円の負担となります。したがって慢性の病気で多くの薬を飲んでいる方は、窓口2割負担の方は実質的には3割負担、3割負担の方で4割と同じ金額を支払っていました。今回この制度が廃止されたため、負担が増えたはずなのに薬局の支払いが前よりも減って疑問に持たれた方もあったようです。

検査データについて

～パート 2：糖尿病に関するデータ～

糖尿病かどうか診断する検査

尿糖検査・・・尿中に糖が出ていないかを調べます。一般には、血糖値が 160～180mg/dL を超えると尿に糖が出るようになっていわれています。尿糖は陰性であるのが正常です。

血糖検査・・・血液中に糖がどれくらい含まれているのかを調べます。空腹時の血糖値は 110 mg/dL 未満、食後の血糖値は 140mg/dL 未満であるのが、正常です。

空腹時血糖値が 126mg/dL 以上又は、食後の血糖値が 200mg/dL を超えると「糖尿病型」と診断され、別の日に検査しても「糖尿病型」を示す血糖値だったり、他の診断基準に当てはまる場合、糖尿病と診断されます。

正常でも糖尿病でもない血糖値の場合は「境界型」と呼ばれ、食事に気をつけ、運動するなど正常値に近づける努力が必要になります。

糖負荷試験・・・空腹時、糖分を含む液体を飲んで 30 分後、1 時間後、2 時間後の血糖値を測定する方法です。

糖尿病の状態・程度を調べる検査

血糖測定・・・病院で血をとって調べる方法の他に、測定器を用いて自分で血糖を調べる方法があります。

血糖日内変動・・・食前、食後、夜間など一日のうちに何回か血糖を測定します。どの時間帯が、血糖値が高いのか、逆に低血糖を起こしそうなのはいつかなどがわかり、インスリン注射を注射する量を決めたりするのに役立ちます。

HbA1c (ヘムoglobin A1c)

HbA1c とは Hb (ヘムoglobin) : 赤血球の中の色素) にグルコース (糖) が結合したもので、血糖値に比例して作られます。HbA1c は赤血球の寿命がつきるまで血中に存在するため、過去 1～2 ヶ月の血糖値を反映することになるので、診察日が近くなった時だけ食事制限や運動を頑張っても値は改善されません。普段の血糖コントロール状況を把握することが出来ます。 正常値は 4.2～5.8% です。

糖尿病の合併症(代表的なもの・・・目の病気、腎臓の病気、神経の病気)を防ぐためにも、血糖コントロール(血糖値を正常値に保つこと)が必要です！

編集後記

2 回にわたり検査データについて書かせてもらいました。わかりにくいところは遠慮なく職員にご質問ください。血液検査では大切な血をとられるのですから、せっかく出てきたデータを無駄にしないよう日々の健康づくりに役立てていただきたいと思います。

